

# 福島県水産資源研究所要覧



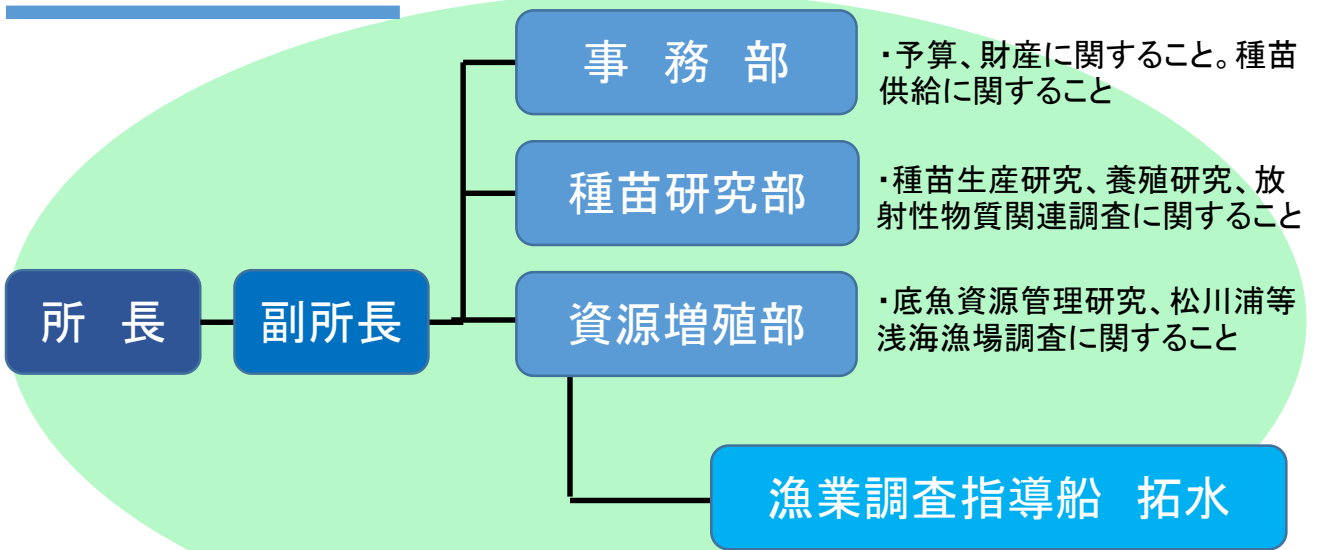
ふくしまから  
はじめよう。

## 【沿革】

福島県水産資源研究所は、震災・原発事故により甚大な被害を受けた福島県の沿岸漁業の再生に向け、県産種苗の供給による栽培漁業の再開及び資源管理の高度化など新たな研究課題に対応するため、平成30年6月に設置されました。

年月	相馬、種苗研究・生産施設、調査船拓水、いわき
明治35年 1月	農商務大臣より設立認可（水産試験場）
大正12年 6月	相馬出張所開設（現：相馬市松川浦）
昭和23年 4月	松川浦分場開設
昭和30年 3月	拓水（4.9t）竣工（初代） 拓水（11.68t）竣工（2代）
昭和43年 4月	松川浦分場新庁舎落成（現在の場所）
昭和47年 8月	拓水（FRP14.73t）竣工（3代）
昭和55年 1月	（財）福島県栽培漁業協会設立
昭和56年 3月	拓水（FRP39.21t）竣工（4代）
昭和57年 4月	栽培漁業センター供用開始
昭和58年 4月	水産種苗研究所設立
昭和62年 4月	松川浦分場に沿岸資源担当を配置（増員）
平成6年 4月	松川浦分場から相馬支場に昇格
平成9年 3月	拓水（軽合金30t）竣工（5代）
平成25年 3月	仮設種苗研究施設竣工（小名浜）
平成25年 6月	相馬支場施設復旧
平成30年 6月	研究組織改編 水産資源研究所設立、供用開始 水産海洋研究センター設立

## 【組織及び主な業務】

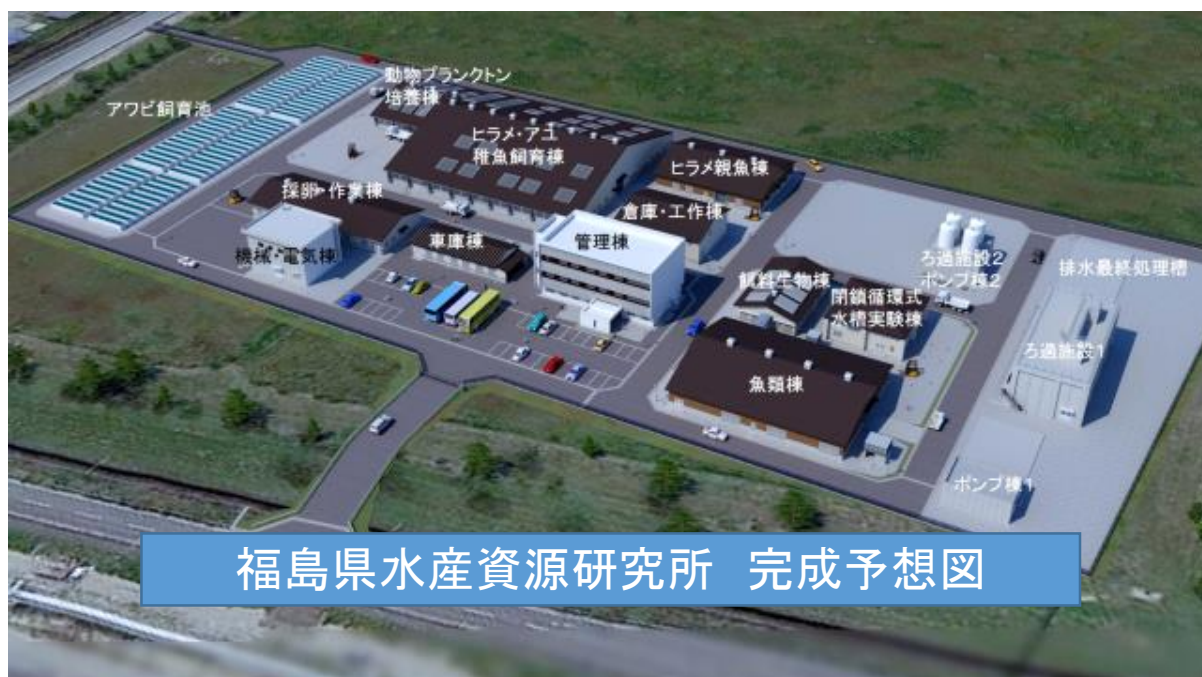


生産施設  
ヒラメ・アユ稚魚飼育棟



研究施設  
魚類棟

## 【施設の概要】



福島県水産資源研究所 完成予想図

建物名	延べ床面積(m <sup>2</sup> )	構造	機能・特徴
管理棟	1086.68	RC造 3階建	・管理室(研究施設、生産施設)、生物実験室、病理実験室等を配置
魚類棟	971.16	木造	・水産種苗生産に係る試験研究を実施。 ・県産木材を使用。
閉鎖循環式水槽実験棟	225	RC造	・試験規模(5m <sup>3</sup> 水槽)の閉鎖循環式飼育設備を備える。
ヒラメ・アユ稚魚飼育棟	2,657	RC造	・75m <sup>3</sup> 水槽を21面配置。ヒラメ100mmサイズ100万尾、アユ60mmサイズ300万尾の生産が可能。
ヒラメ親魚棟	553.5	木造	・種苗生産用親魚を飼育。 ・県産木材を使用
アワビ飼育池	2,522	コンクリート基礎	・7.4m <sup>3</sup> 水槽を80面配置。アワビ30mmサイズ100万個の生産が可能。

### 生産能力

- ・ヒラメ 100mmサイズ100万尾規模
- ・アワビ 30mmサイズ100万個規模
- ・アユ 60mmサイズ300万尾規模

### 福島県水産資源研究所

〒976-0005

福島県相馬市光陽一丁目1-14

TEL: 0244-32-0792

FAX: 0244-32-0795

メール [shigenken@pref.fukushima.lg.jp](mailto:shigenken@pref.fukushima.lg.jp)

ホームページアドレス

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37395c/>

JR相馬駅からタクシーで20分

常磐道新地インターから車で10分

